

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0170401335), 法人名 (株式会社 メガ・フレア), 事業所名 (グループホーム ふれあ), 所在地 (札幌市手稲区手稲本町2条2丁目4-11), 自己評価作成日 (令和3年2月22日), 評価結果市町村受理日 (令和3年3月30日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&Jig_yosyoCd=0170401335-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年3月5日)

毎年、ドライブや、外食、散歩、町内会の行事に参加するなど、外に出る機会を多く作り、閉じこもりを防ぐようにしていましたが、今年度は感染症の流行から、毎年、行っている外出レクが出来なくなりました。しかし、出前を取って皆さんに楽しんで頂いたり、誕生日会や敬老会などは、大皿に料理を入れて取り分けるといった事はせず、お弁当箱に料理を入れて、個々に配膳し、お弁当箱の蓋を開ける前のわくわく感や、蓋を開けた時の楽しみを作ったり、綺麗な箸袋に入れてお箸を置いてみたりといろいろ工夫し、「楽しい!」「楽しみ!」と思える時間を多く作りました。また、体を動かす時間も、毎日設け、座っていたり寝ていたりするだけの生活ではなく、少しでも活動的な生活になるようにしています。体調面に関しては、24時間体制で、医療期間と連携しており、医師の協力を得ながら、ご本人、ご家族様が、安心して生活して頂けるよう、日々、取り組んでいます。元気な声がたくさん聞こえ、いっぱい笑って生活しているホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、JR手稲駅に徒歩5分程度の駅前商業地域にあり、古くからの戸建住居と新しいマンション群が混在する住宅街でもあり、幹線道路やJR駅、大型ストア等買い物や移動にも便利な環境で、また古くからの人情の厚い商店も点在する下町情緒が残る地域でもあり、生活をするのには落ち着いた環境下に立地している。事業所の建物は病院を改築し、2階部に1ユニットが入り、9人の高齢者が生活を共にしている。建物の裏手は社長宅の庭が広まっており、緑のあふれた庭には春夏秋冬、様々な小動物が表れ、また四季の移ろいが目の前で繰り広げられ、利用者の楽しむ場所となっている。当事業所の優秀な点は、介護への真摯な取り組みを挙げたい。介護目標の達成には介護日誌を管理工程表として活用するのが望ましいが、手本となる様式等がなく、またどこにも示されていない現状で、独自の介護日誌を作り、介護目標への進捗度把握に努めている。ケアプランが、介護の背骨であることを示した新しい様式とその取り組みを高く評価したい。二点目は、地域との交流が挙げられる。開設の2005年以降16年が経過し、地域住民とは密接に交流しており、季節ごとの花壇の整理のお手伝いやコミュニティーカフェへの参加、利用者は各住民や商店と日常的に話し、触れあい、地域と一体感が溢れる取り組みが維持されている。またアンケート調査には全家族からの温かい返答があり、高い信頼性で結ばれている。1ユニットの小さな事業所であるが、地域活性と信頼感に富んだ「グループホームふれあ」に今後も大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service outcomes.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも、理念が確認出来るよう、事務所前や、事務所内に掲示、職員更衣室にも掲示しています。	3項目からなる理念、笑顔で接する明るいホーム・相手の立場に立った思いやりと優しさ・広く地域社会に貢献、を事業所内や更衣室にも掲示し、利用者や家族、職員と関係者に示し、実践現場で活かせるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、感染症、流行から、利用者様が地域の方達と交流する機会は、なかったです。しかし、いつも行きたい焼き屋さんなど、近くのお店で職員が買い物をし、皆さんに提供するという形では、ありました。	事業所の経営者は町内会の役員を担っており、また開設後16年が経過しており、地域での認識は高く、行事や散歩での出会い、買い物での会話等々、日常的に触れ合いが維持されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、出来ていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症流行から、運営推進会議の開催を見送った為、文書での報告となっている。ご家族様と個別に話しをし、要望を聞くようにしている。	運営推進会議は家族や包括センター、地域代表の出席を得て、2ヶ月毎に開催されている。議事内容では、外出や出前の内容から自己やヒヤリハットまで報告され、開かれた事業所として、サービス向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護課とは、連絡を取り、連携をとっています。	手稲区の管理者会議に参加し、市や区の主催する研修には管理者、職員が積極的に参加し情報交換に努めている。また生活保護の職員とも連携を深め、行政との関係維持に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、ホームの立地から戸を半扉にし、施錠しているのが、現状。身体拘束に関しては、職員は、拘束にならないかを考え、支援を行っている。	身体拘束適正化委員会を設け、指針を定め、3ヶ月毎に開催している。内容は現状の介護の是非を確認し、職員に周知徹底している。また運営推進会議でも報告し、抑制も拘束もない適正な介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の不足から、業務が過密になっている毎日。そのストレスが虐待のきっかけにならないよう、なんでも言える・話せる雰囲気作りを優先している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を作る事は出来ませんでした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学時の時間を大切に、話しやすい環境作りに努め、入居後も気軽に話しが出来るよう、努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会来所を禁止している事から、直接、ご家族様と話しをする機会をもうける事は出来なかったが、電話にて、利用者様の状況を報告した際、ご家族様の要望を聞くように努めている。	家族の来訪時にはゆっくりと話す機会を持ち、家族の意向を伺うようにしており、介護日誌等の個人記録も確認してもらい、意見・希望欄に自由記載も可能とし、意見や意向、希望と要望を取り込んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1度昇級時期に合わせて個人面談を実施。また現在は代表者も現場を手伝いその都度要望及びヒアリングを実施。	毎月の定例会議の他、申し送り時等で色々な意見や提案を受け、また必要に応じて個人面談も用意実施するなど、常に職員の意見を聞く機会を設けながら、職員の思いや提案が実現できるように臨んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年度実績に合わせて昇給を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等の費用は会社負担としている。希望があれば率先して参加して頂いているが、コロナウイルスの影響によりここ1年は実行できなかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は感染防止の為に他施設等との交流は差し控えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	入居前にご本人とお話し出来ればと思っておりますが、ご家族様から情報を多く聞き取り、不安なく生活がスタート出来るよう、努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めています。	来所・電話問わず、いつでも話せる、話しやすい環境を作るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています。	その時の様子や状況を見て柔軟な対応が出来るよう、努めています。ご家族様とお話しをした時や、本人との何気ない会話から、必要としている事を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	気持ちに寄り添う支援を心がけています。積み重ねの日々で、今は、冗談を言いながらお話しして頂けたり気軽に困っている事を話して頂ける関係になっています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度は、面会禁止の状況が続いていた事から、ご家族様と利用者様が会えない状況となっていた為、電話にて、お話して頂く機会を設けご家族様との時間を過ごして頂きました。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めています	今年度は、面会禁止の状況が続いている事から、会うという時間を作る事は出来ませんでした。アルバムを見たり、思い出の場所の話などをして、その時の事を思い出して頂けるようにしました。	家族や知人、友人の面会は自由に行われるよう配慮し、家の墓参りや地元のお祭り、初詣等は家族に協力する体制であり、外泊や家族との外出も積極的に応援、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めています	いつも顔を合わせている方達が周囲にいる事で、安心した関係が築けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて行っています。退去後も、気軽にお話し、相談して頂けるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを優先したケアを職員全員で取り組んでいます。困難な場合は、表情や発語、行動から何を考え思っているかを理解しようと取り組んでいます。	本人の意向を尊重するため「本人流」を認識し、職員で共有しながらケアが本人本位といえる「本人流」になるように努めている。	本人の最終段階での意向について、定期的に聞き取り、記録することについてその必要性を論議し、事業所にとって最適な方法で取り組むよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の何気ない会話やご家族様からお話しを聞き、少しでも多くの情報を得よう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のペースを尊重し、毎日の体調・気分の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今年度は、感染症流行から、人が集まっていた会議を開催していません。気になる事があった時は都度報告してもらい、検討しています。	介護計画の実施のために、介護日誌を改定して日々の目標達成の進行状態を把握できるように取り組み、職員全員が目的をもった介護を実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にケアプランを載せ毎日、評価しています。毎日、確認する事で、ケアが適切かどうかを考える事が出来ています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況、生活パターンにあった対応を行っています。ご家族様の要望に対しては、可能な範囲で支援をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム医の協力を得ながら、穏やかに生活出来るよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診希望は、殆どない。ホームで定期往診、急変時の対応などは、24時間、ホーム医が、いつでも対応してくれている。	事業所にお任せの利用者が多く、協力医の適切な診療で、24時間オンコール対応で安心できる医療体制となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時に日々の生活の中での変化や気づきを報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、迅速に病院側に情報提供出来るよう、個々の医療台帳を作り管理しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、主治医から家族へ説明して頂き、ご家族様の意向を聞き、管理者を含め今後の対応を決めています。ホームとして出来る事も、状況に応じて都度、説明しています。	終末期については、入居時に文章で説明し同意を得ている。重度化した場合、本人や家族の意向によるが、いくつもの選択肢を提供し納得のいく方向で調整し、実現できるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルはあるが、それについて確認、勉強会は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練にて、火災時の避難誘導確認を行いました。また、利用者様も含め、地震が起きた時の行動確認も行いました。	消防署の指導により年に2回、運営推進委員や地域住民の参加を呼び掛けながら訓練を実施し、また停電災害も想定して石油ストーブも用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のペースに合わせゆっくり対応するよう、努めています。声のトーンや声掛けの仕方など、相手にあった支援を心がけています。	少人数の事業所であり、1ユニットの全個人情報共有し、どこでも楽しい時が過ごせるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを上手く伝える事が出来ない方もいらっしゃるのので、聞き方を工夫し、自分で決める事が出来るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを尊重し、1人1人、その時の状況に応じて、対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に身だしなみを整え出来ない方はお手伝いをしています。それ以外でも、気が付いた時は、声をかけ、出来ない方は、お手伝いをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に出来る事をして頂き、その方の得意な事が続けられるよう、支援を行っています。	献立や食材は専門業者に依頼しているが、利用者にはお手伝いもお願いし、職員も同席しながら楽しい食事になるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在の水分量がすぐに解るよう、食堂に水分表を貼り把握するようにしています。また、食事量も、毎日の記録に記載し、把握するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診を利用している為、必要に応じて、相談をし、アドバイスを頂いております。口腔ケアをご自分で出来ない方は付き添いやお手伝いをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレでの排泄を促す働きかけをしたり、定時誘導をしています。おむつを使っている方は、今、使っている物がその方に適しているか、都度、検討しています。	利用者がどのような形態であれ、トイレでの排泄を続けられるよう努めている。利用者各人の排泄パターン、排泄サインを把握理解し、不快な思いをさせないケアに徹している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を飲んでいますが、また、日々の排便状態を記録し、排便パターンを把握しています。便秘になりがちな方は、主治医の指示のもと、下剤等を使用しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務の状況から、入浴は午後になってしまっていますが、ひとりひとりのペースに合わせて、お話しをしながら、ゆっくり入浴の時間を楽しんでいます。	入浴日は毎日お湯を入れて準備し、いつでもだれでも入れるように取り組み、個人にみあった入浴支援に努めている。拒否者には無理強いすることなく、時間や介護者に変化をつけ、楽しいお風呂になるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況を見て、支援しています。また、昼夜逆転しないような支援も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期往診記録など、医療記録を職員全員で確認しています。薬に関してもすぐに薬の内容が確認出来るよう、薬ファイルを作り活用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物が得意な方、脳トレ問題が得意な方など、個々に得意な事がありますので、継続して出来るよう、支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は感染症流行から、外に出る機会が殆どありませんでした。夏に個別で散歩をしたぐらいです。面会禁止の時期が長い事から、ご家族様と会う機会も今年度は、少なかったです。	四季のドライブで桜の花や紅葉等を楽しんでいる。また天候と相談しながら近隣の散策、買い物にも出かけて隣人や店員さんと会話を交わすなど、気楽なお出かけは利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお財布を持っている方はいません。ご家族様が管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛ける事を希望された場合、早朝、深夜以外は、取り次いでいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に歩けるよう、手すりの無い所は、テーブルなどを置き、掴まれるようにしています。植物も多く、今年度は、図書コーナーを作りました。図書コーナーの近くに椅子を置く事で、そこに座り、ゆっくり本を選ぶ事が出来ています。	事業所は建物の二階部分であり、日差しもよく景色も楽しめる居間兼食堂となっている。温度や湿度も適正で、また固定したテーブルが廊下に配置され、安心して歩けるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ロビーに椅子を置き、くつろげるようにしています。食事以外の時でも、食堂で過ごされる方が多く、自由に座って頂けるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時のお部屋作りは、ご家族様にお任せしています。生活をしていく中で、安全に過ごして頂く為の工夫が必要な時は、家具の配置替えなど、都度、行っています。	居室には利用者の好みの家具が持ち込まれており、小物類も多様で、落ち着いた雰囲気居心地のよさが感じられる自分の部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースで、手すりの無い所には、テーブルなどの家具を置き、手すり代わりにしたり、トイレの場所が解かるよう、看板をつけたり、出入口の床の色を変えたりと、解かりやすく、伝えやすい工夫をしています。		